

来週の計画をしっかりと立て、やれることは全て行い春期講習会を迎えよう
- 校長の強力なリーダーシップの下、校舎一丸となってこの危機を乗り切ろう -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. 本日正午過ぎより、東北自動車道の浦和 - 宇都宮と北関東自動車道全線が開通いたしました。ガソリン不足が続いていますが、来週中にはガソリンの状況がかなり解決するものと予想されています。計画停電が実行されたときは、授業ができない場合もあり大変な思いをされておられると思いますが、十分に工夫して授業計画を策定するようお願い申し上げます。
2. 今日お考え頂きたいことは、「来週の計画をしっかりと立て、やれることは全て行い春期講習会を迎えよう」ということです。
 - (1) そのために大切なのは、「校長の強力なリーダーシップの下、校舎一丸となってこの危機を乗り切ろう」という精神、スピリットです。
 - (2) 校長があきらめたら、その校舎はおしまいです。授業をする先生方があきらめたら、そのクラスの塾生の学力は少しも身につきません。校長も全教職員の皆様も「絶対にあきらめない。自分の校舎の未来は校長と全スタッフが切り開く。塾生の学力は担当の先生が引き上げる」という熱い気持ち、情熱だけが校舎の存続を担保(たんぽ)します。校長は、その中心人物としての誇りと使命感を持って校舎を経営(営みを経て、目的・目標を達成すること)して下さい。校舎の全スタッフの皆様も校舎の主人公です。消極的な態度は絶対に禁止。「こんなことしなくてよい」も禁句。塾生の学力向上に資することはどんどん実行に移して下さい。(そうしないと、近くの積極的な他塾との競争に破れてしまいます)
 - (3) 来週の計画をしっかりと立ててどんどん実行して下さい。
3. 学年末や東日本大震災関連で学校が休みや早く終了する日は、昼間からどんどん授業を入れ、3月分授業や春期講習、4月分授業を「先取り」して実行しよう。
 - (1) 今後、何時(いつ)また大きな地震が来たり、人々が外出できなくなる時が来るか誰にも予想がつきません。我々開倫塾の仕事は、塾生に授業を提供して学力を大幅に向上させることに尽きますので、学校が休みや早く終わった日にはどんどん授業を組み、先の分をどんどん終了させ、予め義務を果たすことです。
 - (2) また、授業が所定の時間にできなかった場合には、後日必ず補習をする旨を塾生と保護者の皆様にていねいに説明し、後日必ず義務を果たすことです。

(3)この計画を組むのは校長先生の職務です。緒方校舎運営部長から毎日送られる指示書をていねいに何回もじっくり読み、何をどのようにしたらよいかを「理解」した上で、自分のものとして「定着」させ、校舎の実情に合わせて全スタッフの皆様には十分御説明・御理解を得た上で実行することが「応用」です。

緒方校舎運営部長から示される文書は、塾長である私からの直接的指示事項そのものと考え、最大限の尊重と御活用を切望します。

全校舎でこのような取り組みをすべきであると考えることがある方は、どうか遠慮なく緒方校舎運営部長に御連絡下さい。

4．小学生は進学希望「中学校」と進学希望「高校」、中学生は進学希望「高校」、高校生は進学希望「大学」の名前を、春休みが終わり学校の新学年が始まるまでに塾生全員に明確にさせ、私に報告して下さい。開倫塾の使命は、塾生の「成功の実現」です。開倫塾では自分の行きたい学校を一人ひとりの「一流校」と名付け、「一流校」の合格が塾生の「成功の実現」の第一歩と考えます。そのための大調査を行います。

(1)小学生全員、中学生全員、高校生全員に毎年1回、一人ひとりの「一流校調査」を実施。1年間かけて、その合格可能性を上げて参りましょう。

(2)学力向上の第一歩は、目標や目的の明確化です。最終ゴールである「目的」を達成するために、1つ1つの「目標」をクリアしていくことです。来年、数年後に、「目的」地である「一人ひとりの希望校」合格を果たすためにはどうしたらよいか、塾生の実情を十分に把握した後に、塾生と保護者と十分に話し合った上で、「目的」と「目標」を明確に示し、P→D→C→Aを徹底的にまわし続けることがプロの学習塾教師。結果をバッチリ出してはじめてプロフェッショナルと言えます。

(3)そのために、小学生、中学生、高校生とも希望校を明確にし、校長も全教職員も一人ひとりの塾生の希望校を熟知し尽くすことです。塾生も開倫塾も本気になった取り組みが求められます。

(4)希望校合格についての総責任者は塾長である私ですから、皆様は4月7日までに校舎全員の調査を終了し、部長会を通じて私に報告して下さい。

(5)調査をするに当たって大切なのは、「何のために生きるのか」「何のために学ぶのか」「何のために進学するのか」「希望校に進学して何を学ぶのか」など基本的なことを校長や先生方が毎日のように語り続け、その結果として具体的な学校名を明記してもらうことです。「今までの成績ではどうして合格しないとすれば、どのような勉強方法をとったらよいか」という質問が当然出てきますので、「学習の3段階理論」を詳細に、わかりやすく、ていねいに、また、全員が身につくまで語り続けることも大事な仕事となります。

(6)開倫塾の校長と全教職員の皆様の力で、塾生の人生の選択肢を大いに増やしてあげて下さい。このような時は勉強する以外はありません。しっかり勉強させて下さい。

5 . 本日は、「今こそ自律的な活動を行おう - 東日本大震災下の過ごし方を考える - 」シリーズの続きとして、5 つの文章をお送りいたします。

- ・ (8) は、ヒューマンサイエンス研究所会長の小林恵智先生から昨日送られてきた公益社団法人経済同友会への意見書。被災地で救援活動をしながら、経済界に身を置く者として何を成すべきかを訴えた文章です。小林先生はかつて開倫塾でも御講演いただきました。

「あきらめたらおしまい。林さん、ハヤブサのように生きようぜ」と言って私を励ましてくれたのは小林先生です。「経営とは営みを経て目的・目標を達成することだ」と教えてくださったのも小林先生です。

- ・ (9) は、正岡子規著「病床小尺」を昨年元旦に書き抜いたもの。

「人間はどれだけの土地が必要か(How Much Land Does a Man Need?)」というトルストイの本を思いさせる冒頭の文章。

土佐の水産補習校の話、一家の団欒(だんらん)が何よりの家庭教育という文章は、この時期、塾生に是非紹介して頂きたいと思います。

- ・ (10)岡崎久彦著「陸奥宗光(上)」の生き方は、よい政治をするに際して何が大事かを教える大きなヒントとなります。先程、菅首相が自民党の谷垣総裁に副総理としての入閣を打診したニュースがありましたが、陸奥宗光が自民党総裁であったらどのような行動を取ったか。とても勉強になります。

- ・ (11)岡崎久彦著「小村寿太郎とその時代」

英語力抜群の小村寿太郎が眼病を患ったときの過ごし方は、計画停電中の過ごし方として最も参考になります。是非、塾生に紹介してあげて下さい。

「読書と思索だけに時間を過ごした」「つねに国事しか念頭になれば貧乏の恥も忘れられる」。志の高い生き方はこのようなものかも知れません。

- ・ (12)中前忠著「第二自衛隊論」

私は「300 万人の臨時自衛官を」と主張していますが、この考えは 10 年以上前から直接御指導頂いている中前先生の考えに依拠しています。今から災害支援が本格化しますが、被災地の救援と復興には膨大な人員が必要です。そのための最も有効な方法がここに示されています。

以上、御参考まで。がんばりましょう!!

感謝

今こそ自律的な活動を行おう(8)

- 東日本大震災下の過ごし方を考える -

●添付文書の内容

こんな時こそ『具体的な行動』をお願いします。

人類の叡智により救われた私の命は「人類のために使い切ろう」と、被災後3日目から数名の雲水と茨城と福島被災地で“禅坊主”としてボランティアをしています。

人間は必ず死ぬ現象です。しかし、統計的な死は報道されますが、具体的な死にはマスコミも見えて見ぬ振り。火葬も出来ず、棺も無い固有名詞の死を見送っている毎日、心を過るのは『資産・収入・教育などの格差社会』の片隅で必死に生きて来た人々の最後が余りにも悲惨だというやり場の無い怒りです。

市場原理社会の底辺を支えていた彼らあつての我々経営者です。経済同友会は産業団体ではなく『志のある経営者』の団体だと信じています。企業社会擁護の論理からの提言も必要だという事は十分承知していますが、今の我々の生活や立場を底辺で支えていた一次産業の従事者と家族、そして今の企業を成立させている社員や社員の親兄弟、そして顧客。今、彼らは目の前で苦しんでいます。明日は吾身、次は東京かも知れません。

同友会の会員である経営者は、その高い能力を使って社会に貢献しようという方の集まりであることは十分承知しています。しかし、経営者である前に被災者と同じ人間です。人間には一人一人に個有な能力があり、個有の使命があると思います。だからこそ、職業を通じた社会貢献を実践されているはず。しかし、今、一人の経営者である前に、被災者と同じ人間として、その高い能力と使命感を具体的な活動に移して頂ければと思います。

人は他の不幸の上に幸せを築くことは出来ないのは科学的に証明できる事実です。今、現地で必要なのは、表面的な食料・水・燃料だけではなく『希望』です。格差社会を広げるのではなく縮めることで、今日の社会は健全化します。それには企業社会の雄の会員各位が『一人の人間』として率先垂範して頂く以外に期待出来るセクターが無いのが現状です。今、企業本体ではなく『志の高い経営者』に出来る事、それは人間味のある経済的支援に勝るとも劣る事の無い『希望』を被災者に与えて頂く事です。

例えば、全国紙全面を使った『優先雇用』のような具体的なメッセージかもしれません。『奨学金は任せろ』かもしれません。何がベストかは解りませんが、今直ぐの『具体性を持った勇気づけ』が必要です。それは全国の経済同友会に対し『具体的行動』の必要性を訴える『率先垂範』になるかもしれません。是非考えてください。

ヒューマンサイエンス研究所会長 小林恵智(活人禅堂師家)

今こそ自律的な活動を行おう(9)

- 東日本大震災下の過ごし方を考える -

書き抜き読書ノート 460

2010 年 1 月 1 日

正岡子規著「病床六尺」ワイド版岩波文庫、岩波書店 1993 年 4 月 7 日刊を読む

一 病床六尺

1．病床六尺、これが我世界である。しかもこの六尺の病床が余には広過ぎるのである。僅かに手を延ばして畳に触れる事はあるが、蒲団の外へまで足を延ばして体をくつろぐ事も出来ない。甚だしい時は極端の苦痛に苦しめられて五分も一寸も体の動けない事がある。苦痛、煩悶、号泣、麻痺剤、僅かに一条の活路を死路の内に求めて少しの安楽を貪る果敢なさ、それでも生きて居ればいひたい事はいひたいもので、毎日見るものは新聞雑誌に限つて居れど、それさへ読めないで苦しんで居る時も多いが、読めば腹の立つ事、癩にさはる事、たまには何となく嬉しくてために病苦を忘るるやうな事がないでもない。年が年中、しかも六年の間世間も知らずに寐て居た病人の感じは先づこんなものですと前置きして

2．土佐の西の端に柏島といふ小さな島があつて二百戸の漁村に水産補習学校が一つある。教室が十二坪、事務所とも校長の寝室とも兼帯で三畳敷、実習所が五、六坪、経費が四百二十円、備品費が二十二円、消耗品費が十七円、生徒が六十五人、校長の月給が二十円、しかも四年間昇給なしの二十円ぢやさうな。そのほかには実習から得る利益があつて五銭の原料で二十銭の缶詰が出来る。生徒が網を結ぶと八十銭位の賃銀を得る。それらは皆郵便貯金にして置いて修学旅行でなけりや引出させないといふ事である。この小規模の学校がその道の人にはこの頃有名になつたさうぢやが、世の中の人には勿論知りはずまい。余はこの話を聞いて涙が出るほど嬉しかつた。我々に大きな国家の料理が出来んとならば、この水産学校へ這入つて松魚を切つたり、烏賊を乾したり網を結んだりして斯様な校長の下に教育せられたら楽しい事であらう。

(明治三十五年五月五日)

P7 ~ 8

六十七 家庭の教育 - 一家の団欒(だんらん) -

家庭の教育といふ事は、男子にも固より必要であるが、女子には殊に必要である。家庭の教育は知らず知らずの間に施されるもので、必ずしも親が教へようと思はない事でも、子供は能く親の真似をして居る事が多い。そこで家庭の教育はその子供の品性を養ふて行くのに必要であるが、また学校で教へないやうな形式的の育も、極些細な部分は家庭で教へられるのである。例をいへば子供が他人に対して、辞誼をするといふ事を初めとして、来客にはどういふ風に応接すべきものであるかといふ事などは、親が教へてやらなくてはならぬ。殊に女子にとつては最も大切な一家の家庭を司つて、その上に一家の和楽を失はぬやうにして行く事は、多くは母親の教育如何によりて善くも悪くもなるのである。ところが今までの日本の習慣では、一家の和楽といふ事が甚だ乏しい。それは第一に一家

の団欒といふ事の欠乏して居るのを見てもわかる。一家の団欒といふ事は、普通に食事の時を利用してやるのが簡便な法であるが、それさへも行はれて居らぬ家庭が少くはない。先づ食事に一家の者が一所に集まる。食事をしながら雑談もする。食事を終へる。また雑談をする。これだけの事が出来れば家庭は何時までも平和に、何処までも愉快であるのである。これを従来^{だんらん}の習慣に依つてせぬといふと、その内の者、殊に女の子などは一家団欒して楽しむべきものであるといふことを知らずに居る。そこで他家へ嫁入りして後も、家庭の団欒などいふ事をする事を知らないで、殺風景な生活をして居る者がある。甚だしいのは男の方で一家の団欒といふ事を、無理に遣らせて見ても、一向^{いっこう}に何らの興味を感じぬのさへある。かやうな事では一家の妻たる者の職分を尽したとはいはれない。それ故に家庭教育の第一歩として、先づ一家団欒して平和を楽しむといふ事位から教へて行くのがよからう。一家団欒といふ事は^{ただ}啻に一家の者が、平和を楽しむといふ効能があるばかりでなく、家庭の教育もまたこの際に多く施されるのである。一家が平和であれば、子供の性質も^{おのずか}自^{おのずか}ら平和になる。父や母や兄や姉やなどの雑談が、有益なものであれば子供はそれを聴いてよき感化を受けるであらう。既に雑談といふ上は、むづかしい道德上の議論などをするのではないが、高尚な品性を備へた人の談ならば、無駄話のうちにも必ずその高尚な処を現はして居るので、これを聴いて居る子供は、自ら高尚な風に感化せられる。この感化は別に教へるのでもなく、また教へられるとも思はないのであるが、その深く^し沁み込む事は学校の教育よりも更に甚だしい。故に家庭教育の価値は或る場合において学校の教育よりも重いといふても過言ではない。

(七月十八日)

P110 ~ 112

[コメント]

正岡子規の病床随筆四部作の最後の作品。書き終えた日に昏睡に陥り、翌日、35 歳になる直前に息を引き取る。

人間の限界に挑戦した本書は、睦月一日に熟読するにふさわしい。

- 2010 年 1 月 1 日 林明夫記 -

今こそ自律的な活動を行おう(10)

- 東日本大震災下の過ごし方を考える -

書き抜き読書ノート 159

2009 年 3 月 6 日

岡崎久彦著「陸奥宗光 上」PHP 文庫 1990 年 11 月 15 日刊を読む

陸奥の思想的背景は、徂来学(そらいがく)と功利主義であって、「天賦人權」というような自然権の発想ではない。

要は国益であり、経世済民(けいせいさいみん)である。

よい政治、政策が第一で、そのための手段、—— どのような政治体制をとるかも手段の一つである—— は一次的な意義しかない。

徒党を組んで騒ぐのも別に反対ではないが、「それが、どういうお国の利益になるの?」「どういう民の幸福になるの?」と絶えず問い返す人である。

陸奥個人にとっては、大事なものは、国利、民福のために自らの経綸をいかに実行するかであって、そのために権力を得る手段もまた、何でもよいわけである。そして、出獄後の陸奥は、権力を得るためには、民間の運動によるよりも、政府内部に入る方が近道であると判断していた。

[コメント]

ベンサムの最大多数の最大幸福をよく理解した陸奥の思想は、日本の外交の上で大いに役立った。

- 2009 年 3 月 6 日林明夫記 -

今こそ自律的な活動を行おう(11)

- 東日本大震災下の過ごし方を考える -

書き抜き読書ノート 513

2010 年 2 月 23 日

岡崎久彦著「小村寿太郎とその時代」PHP 研究所 2010 年 1 月 11 日刊を読む

いまは日本の力は微弱であるがあと 10 年たてば

- 1 . 日本では流血を見ることなく封建主義の支配者が倒された。革命の前に、もっぱら愛国的な動機から多くの大名たちが辞任し領土を引き渡した。
- 2 . 領主への忠誠心は持ち続けていたがそれよりも愛国心のほうが強かったので、領主がその地位を辞したときは残念というよりむしろ嬉しかった。貢進性(こうしんせい)は全員寄宿生活をしていたが、小村だけでなく彼らの志気は極めて高かった。それぞれの道を代表しているという責任感もあり、また、近代日本を背負って立つ気概もあり、全員規則正しい生活をして東京の市街の空気に染まることなく大いに学び、大いに論じ、和漢洋書を読破して深更に至り、誰も彼もが他日有用の人材になろうとして切磋琢磨したという。P19.20
- 3 . ある時期 2 人とも眼病を患い、医者から夜間の読書をやめるように言われた。(下宿の同室の)金子は、将来外交官になるつもりだから、夜は外出して社交を学ぼうとしたが小村はつき合わない。夜、金子が社交から帰ると、一人天井を眺めて黙想をしている。そして昼間読んだ本を夜間、頭の中で反芻(はんすう)して、瞑想にふけているのだと答えたという。小村の英語力は抜群であったという。P23.24
- 4 . 読書と思索だけに時間を過ごした。P25
- 5 . 日本の武士の道徳は寡黙(かもく)、不言実行、一言然諾(いちごんぜんたく)を重んじた。世の毀誉褒貶(きよほうへん)などは意とするに足らず。P26
- 6 . 度胸を支えるものとして信念がなければならない。封建時代の武士が高い身分でありながら質素な生活に堪え、一高の生徒が幣衣破帽を恥じなかったのは自らの思想が高踏的であるという誇りがあるからである。つねに国事しか念頭になれば貧乏の恥も忘れられる。P30

- 2010 年 2 月 23 日 林明夫記 -

今こそ自律的な活動を行おう(12)

- 東日本大震災下の過ごし方を考える -

書き抜き読書ノート 125

2009 年 1 月 31 日

中前忠著「十字路 - 第二自衛隊創設論」日本経済新聞 2009 年 1 月 6 日夕刊を読む

- 1 . (1) 経済が成長するためには、労働力は成熟部門から成長部門、人手不足部門に移動していかななくてはならない。

(2) 予想される世界経済の長期的な低迷を考えると、製造業やそれをサポートする非製造業が雇用調整を行うのは当然のことである。

(3) これらの産業は雇用を削減して、生産性を改善させていくべきである。
- 2 . (1) 雇用調整の加速とともに明らかになってきたセーフティーネットの不備は早急に是正されるべきであるが、より重要なのは、雇用調整によって生み出される余剰労働力の質の向上である。

(2) 職業訓練の充実が不可欠だが、その実行が難しいのは、失業者に経済的余裕がないからである。
- 3 . (1) もう一つの問題は、人手不足部門は往々にして利潤率が低いことである。

(2) 農林水産業然り、医療・介護然りである。

(3) 人手不足でありながら、雇用吸収力がないのである。

(4) このような状況では国が雇用者としての役割を果たすのが最も効果的だ。

(5) 自衛隊的な組織を創設するのである。

(6) 200 万人で年収 200 万円なら、4 兆円の財政支出となる。
- 4 . (1) 隊のなすべきことは、まず集団的規律と職業訓練の実施である。

(2) 労働力の質を高めることがその目的である。

(3) 質の高い労働力は、将来成長産業に吸収されていくことになる。

(4) もう一つが、治山、治水、海岸線の清掃から、休耕田の再生による食料自給率の引き上げと

いった地域経済再生活動である。

5 . (1)このような潜在的需要と余剰労働力を結びつけるのは国の最も重要な役割である。

(2)ケインズの財政支出政策の問題は、1 兆円の支出が何人の雇用を生み出すかわからないことだ。

(3)産業構造の変化が読めないからである。

(4)多くの場合、成熟産業の延命に使われている。

(5)200 万人では不足かもしれないが、200 万人分の雇用をまず確保する。

(6)これによって労働需給が改善するだけでなく、こういった国営事業は成長産業を生み出す可能性も秘めているのである。

[コメント]

雇用の直接創出と能力強化の両者を、税金を使って最も効果的に行うとすれば、中前忠先生のこの論文の考え方は極めて参考になる。逃げることなく、真正面から議論するに値すると確信する。

- 2009 年 1 月 31 日林明夫記 -